

第 1 回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時 平成 28 年 7 月 4 日(月)午前 10 時 00 分～12 時 00 分

開催場所 佐倉市社会福祉センター地下研修室

出席委員 佐々木 とく子、佐川 章、兼坂 誠、稲村 多恵子、黒川 隆生、
宇田川 光三、石原 茂樹、小原 和夫、西廣 直子

欠席委員 なし

事務局 井坂 幸彦（福祉部長）、渡辺 祥司（社会福祉課長）、
川根 紀夫（福祉部主幹補）、小林 知明（社会福祉課管理班班長）、
櫻井 裕樹（社会福祉課地域福祉班班長）、鈴木 稔（社会福祉課主査補）、
山本 あずさ（社会福祉課主査補）

傍聴人 1 名

顛 末

1. 開 会

2. 福祉部長あいさつ

3. 議 事

（1）会長、副会長選出

会長に黒川 隆生委員、副会長に佐川 章委員が選出された。

（2）会議公開、議事録の作成方法について

会議の公開の可否について、佐倉市情報公開条例及び佐倉市地域福祉計画推進委員会設置要綱第 7 条の規定により公開することとし、ただし、特定の個人又は法人の情報に関して公開しないことが適当と認める場合は、公開しないことが了承された。また、議事録の作成は、発言の要録とし、議事録は、佐倉市市政資料室に配架し、必要に応じ佐倉市 H P 等で公開していく。

（3）議事録署名人の選出について

前回の委員会に引き続き、委員名簿の順に輪番制で 2 名が務めることが承認され、今回は、佐々木委員、佐川委員が任命された。

4. 概要説明

（1）佐倉市地域福祉計画推進委員会について

（2）今後のスケジュール等について

【資料 1】佐倉市地域福祉計画推進委員会委員名簿

【資料 2】佐倉市地域福祉計画推進委員会設置要綱

【資料 3】佐倉市地域福祉計画推進委員会とは

【資料４】第３次佐倉市地域福祉計画の概要

【資料５】佐倉市地域福祉計画推進委員会 平成２８年度・２９年度スケジュール
(予定)

【資料１】～【資料５】について、事務局から一括して説明を行う。

○意見、質疑等

【会長】

ただいまの説明について、何かご質問、ご意見等はあるか。

【委員】

第３次地域福祉計画の活動について、予算はどのくらい計上しているのか。

【事務局】

今年度については、当委員会の運営経費である委員報償費のみである。第３次地域福祉計画は、個別計画と課題の整理をした結果、地域福祉推進の基本的なビジョンの提示と住民参加の促進に焦点を当てた内容となっている。この中、住民参加の促進については、３つの基本施策を規定しているが、各個別計画での取り組みが多くあり、それらの取り組みについては、各担当課で予算化して施策を進めている。

【委員】

社協の活動計画についても、関連する計画として参考にしたいので、部数に余裕があるようなら、是非いただきたい。

【会長】

両計画については、関連して取り組みが進んでいくものでもあるので、有意義なご意見だと思う。この点は、兼坂委員にご配意願いたい。

【委員】

計画書２７頁の成果指標について、自治会、町内会活動をしていて、福祉への関心の希薄化、担い手の減少が気にかかっている。４つの指標が設定されているが、大前提として「地域の課題解決に参加する意思があるか」という設問があっても良いのではないか。そして、それを地区別、年齢別にクロス集計して分析ができれば、見えてくるものもあるのではないかと思った。若い人の福祉離れという風潮もある中で、団体や活動の後継者や意識づけが問われているが、やって終わりの調査ではなく、何か気づきになるような、これからの道筋が見えてくるような調査になると良いと思う。

【委員】

意識調査について、調査内容、方法、対象などについて、事前に委員会に提示していただければ、こちらとしても意見を出せるので、お願いしたい。

【委員】

民生委員の活動を通して、住民同士の繋がりの大切さは皆さん理解している

が、どうしたら繋がれるかが分からないと感じているのではないかと思っている。災害弱者で自分でも助けてもらいたいが、助けてもらうための地域との繋がりや関わりがない。意識調査に関して、具体的な活動に参加できる意思のある方がどの程度いるのか、その点は知りたいと思った。また、地域の繋がりについては、橋渡し役がいなくなかなか難しいが、民生委員としてのつながりをどう広めていけるかを大切にしていきたいと思っている。本日、地域の小学校の前で建築関係の会社の方が、清掃活動をしながら挨拶、声かけをしている所に遭遇したので、話を聞いてみると、地域を綺麗にしながら挨拶をする良い機会として活動をしているとのことであった。そうした活動も一つの橋渡し役となっているのではと感じた。

【会長】

市民意識調査について、いくつか意見、質問が出されたが事務局としてはどうか。

【事務局】

市民意識調査については、年度当初に設問の設定をする必要があり、本年度実施分については、既に計画の成果指標と同じ4問の設問で実施されることとなっている。次回の委員会には、本年度の調査結果について、クロス集計の作業も可能と思われるので、その結果を報告するとともに、次年度の設問についても委員会に相談させていただきたい。

【会長】

意識調査については、そのように行っていくことでお願いしたい。当委員会としては、次年度末に向けた中間報告の取りまとめに向けて、事務局から提示される調査結果や資料等の検討を進めて行くことになる。個人的には、この計画の内容を、どのように市民にPRしていくのか、ということが気になっている。計画の内容を知っているかという設問の意識調査をしても意味がないだろう。計画には地域への提案といった内容がかなり書かれているが、その部分をどのようにPRしていくのが鍵になる。

【委員】

第3次計画を一読したが、よく考えて作られていると思った。その内容をどう具体化していくか、その点を議論するのがこの委員会だと思っている。地域で色々と活動しているが、現在、地域の4人に1人は高齢者、9年後には、すべての団塊の世代も後期高齢者となっていく状況の中、元気な高齢者が、困っている高齢者を支える仕組みを作っていく必要があると思い、人材の確保等に努めている。確認したいのは、行政計画と社協計画については、今後とも連携して取り組みを進めて行くということで良いか。

【事務局】

まず計画の周知、PRについてだが、予算の制約もあり冊子としては30

0部の製本となっている。配布状況としては、市議会、第5章の事例調査の関係者等に先ず配布を行った。今後については、印刷した計画書そのものを配布して読んでもらうことよりも、A3裏表程度のリーフレットののようなものを作成し、地域福祉活動に取り組んでいる団体等への配布、イベント等を活用した配布を行うことを検討している。また、地域福祉に関する事例調査については、引き続き実施し、市ホームページでの掲載等を通じて、地域の支え合い・助け合いの構築に向けて住民へ投げかけるような情報発信が出来ればと考えている。次に、社協計画との関係については、今後とも連携を図りつつ取り組んでいくことに変わりはない。先日、行政・社協間の事務局連絡会議を開催し、今後の計画の推進について協議し、次年度に再び「地域福祉フォーラム」を開催し、住民啓発につなげていくことについて基本的に合意した所である。

【会長】

予算的な制約があるのであれば、印刷物を作成するよりも、一つの案として、こうほう佐倉で計画の内容について、定期的な掲載をしてはどうか。市民が広く読むとなるとやはり広報だろうと思う。

【委員】

社協は、「社協さくら」でともに歩むふくしプランⅢの内容をまとめたものを保存版として掲載している。

【委員】

一つの提案になるが、第2章の地域の現状に書かれている地域の様々な課題について、少し絞り込んで掘り下げてみてはどうか。重い課題が一つひとつ横たわっているが、行政だけ、住民だけでは解決できないので、NPOやボランティア等にも期待したいというのが見えてこない、誰がどうしてくれるのかと、住民は思ってしまうかもしれない。また、元気な高齢者の活用という話が出ているが、出て行きたいけど出ていけない、話をしたいけど話ができない高齢者もいて、中には地域の活動の戦力になる人もいる。こういう方々をどう引き込むかということも鍵になる。課題を掘り下げの中で、地域の未来像の実現に向けた歩みが進み、行政の取り組みが進むことで魅力ある佐倉市のPRになるという道筋を描き、更に、第5章の事例についても、市内で行われている独自の取り組み等について、補足、加筆していくと面白くなると思う。

【委員】

自助、互助、共助が大切だと言われる中、地域の中の関係といったものは、まさに行政の手が届きにくい部分になる。自分の地域では、「挨拶のできるまちから助け合いのできるまちへ」というスローガンでやっている。小学生の下校を見守る活動をやっているが、最初に呼びかけて集まった時に

「雨の日もやるのか」と聞いていた人が、今では毎日欠かさず参加している。始めは個々人の動きであったものも、自治会、町会単位に広がり、近隣の町会とも合同して防犯、防災の取り組みを行っている。地域の助け合いは地域の自分たちでやるものではあるが、どうしても行政のサポートが必要な時に、何らかのサポートがきっちりあるという連携した動きになってくると、この計画の具体化になっていくのではないかと思う。

【委員】

地域の課題の話が出ていたが、個別計画の個々の課題についてまで見ている訳ではないので、次回の委員会ではその辺りも整理して、提示していただけると有り難い。また、地域福祉活動の事例調査については、現時点で内容等は固まっているのか。

【事務局】

現時点では、具体的な事例調査の内容やスケジュールまで固まっていない。ただ、第3次計画の策定において調査を行った際に、色々と教えていただいた団体や事例等も幾つか把握しているので、それらを中心に行うことを想定している。夏までに内容、スケジュールを固め、秋以降に実施していければと思う。また、可能ならば委員の方にも同行していただき、次回の委員会で議論できればと考えている。

5. フリートーク

【会長】

時間的なこともあるので、ここからフリートークに入りたい。

【事務局】

最近、ボランティア連絡協議会で研修に行ったが、活動の中での気づきが大切とのことであった。気づいたことがあれば行動に移す、そしてそれを続けていくことが大事になるという話を聞いて、自分たちの日頃の活動も大丈夫だと思えた。広報紙の取材に行ったマンションでも、入居が始まった当初は無かったつながりが徐々に形成されて、今ではコミュニティと呼べるものにまでなっているとのことであった。時間はかかるかもしれないが、継続して取り組みを続けることの意義を改めて感じた。

【委員】

個人情報の開示について関して、避難行動要支援者名簿の提供が始まり、自治会、防災組織、民生委員などが管理し、日常時、災害時に活用するとのことだが、行政として個人情報の取扱いをどのように捉えているのか、内部での検討を進めて欲しいと感じている。

【委員】

私自身が、先月に後期高齢者となった独居老人であり、高齢者福祉のサン

ブルのようなものだと思っていて、色々に関心を持って調査したり、ボランティア活動に取り組んでいる。その中で感じていることは、高齢者のイベントなどに参加している人については、延べ人数で発表することが多いが、実人数で見ると、全体の比率では少ない。また、これからは地域間格差が大きくなってくると感じる。地域包括ケアシステムなど、各自治体の取組みによって差が出る制度となっており、これまでのように他の自治体の取組みを単に眺めてからスタートさせるのではなく、先進的な取組みに対しアンテナを高くすることが求められるではないか。

【委員】

20代から高齢者介護に取り組み、現在、家には70代が3人と発達障害を抱えた子供がいて、Wケアを超える状況ではと自負している。事例調査については、どんな事例があるかを集める、「ポスト」のようなものやってみることも一つのアイディアかと思った。実感として、福祉は実際に直面してみないと分からないものなので、自分が経験した様々な支援なども集まるのではないかと思った。また、発達障害まではいかないが学校の勉強についていけない子どもをケアする「居場所づくり」のような活動に、定年後で経験のある方の協力があり、会場について行政の支援や空いている個人の家の提供があったりすると、個別の施策を超えた地域のつながりの形成になるのではないかと思った。民間業者との連携についても、配達業者が見守りステッカーを車に貼るだけでも効果が期待できるので、行政からの働きかけも期待したい。

【委員】

第5章について、今後、事例調査を行い、事例が追加されていくので、テーマごとに分類や整理が必要になってくるのではと感じた。基本的に、行政のつくる計画や冊子については、市民はなかなか見ないし、読まない。どうしたら読んでもらえるかとなると、少しでも身近な活動をまとめた内容であれば、読んだ時の気づきもあろうし、従来のものにはない意外性も必要かもしれない。例えば、この推進委員会で議論したことをまとめ、地域福祉フォーラムにおいて発表することも考えてはどうか。

【委員】

社協のともに歩むふくしプランⅢについては、とりあえず1400名の福祉委員に配布を行った。地域福祉はいかに多くの方の参加が得られるかが鍵になるし、まだまだ地域福祉とは何かという理解の浸透が足りていないと感じる。本年は、両計画の初年度としてPRに努め、次年度の地域福祉フォーラムに良い形でつなげていければと思っている。

【委員】

民間との連携について、近隣市の事例になるが、子育て支援計画を作成す

る際に、子育て中の親子に対する聞き取り調査やアンケートを徹底的に実施した結果、親子の遊び場である公園にトイレがないという声が多いことが分かった。そのため、公園の近くの企業にトイレの貸出について、母親の方々と一緒に交渉に行くと、貸出に賛同いただく企業も多かった。行政だけで交渉しては、あのようには上手くは行かなかったと思うが、当事者である市民と一緒に行動したことで、良い方向に動いた。今後の事例調査においても、実際に携わっている、利用している市民の声をできるだけ拾い集める形で実施できれば良いと思う。

【会長】

行政は公助として予算措置をして、セーフティネットを整備するのが役割になるが、地域で行われる自助、共助に対しては、基本的には提案や声掛けを行うことが主で、実際にどこまで手を入れられるかとなると難しい所だろう。補助金を出して何かやるというよりも、どちらかと言えば、市民が主体となって取り組んでいることをきちんと見ている、評価しているという姿勢が大切なのかなと思っている。何らかの表彰制度のようなものも有効かもしれない。

【委員】

活動の担い手を考えるとき、元気な高齢者の活用ということがクローズアップされているが、同時に若い人をどう取り込んでいくかということも考える必要があると思う。仕事もあって、休日は休みたい中、難しいとは思いますが、人と人のつきあいが薄いと言われる時代だからこそ、負担にならない程度からできることを考えていく必要があると感じる。災害ボランティアで若い人が多く活躍しているのを見ると、本当は担い手になりたいと考えている人も多いのではないかなと思う。

【会長】

皆さんのお話を聞いていて、本当に多様な良いメンバーが集まったな、良い議論が今後とも出来そうだな、という手ごたえを感じた。次回の委員会においても活発な議論を期待したい。

7. 閉会